

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1195700024		
法人名	(株)サン・トラベル		
事業所名	グループホーム平野ひので		
所在地	埼玉県蓮田市上平野1944-5		
自己評価作成日	平成28年3月10日	評価結果市町村受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート		
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9		
訪問調査日	平成28年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全入居者さんが安心かつ穏やかで家族のように生活出来るホームを全職員で目指しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●昔のポスターやホームのシンボルマークを掲示するなど懐かしめる・くつろげる雰囲気作りに努めている。またプランターによる栽培を楽しむなど利用者が憩える場の提供に取り組んでいる。 ●広い敷地に立地するホームは職員の見守りと利用者の自由を重視する考えのもと外出できる環境が整えられている。玄関の施錠をしないケアが利用者の安定と着きをもたらししている。 ●重度化に伴い機械浴を導入し、湯船にゆっくと浸かってもらえる環境を整備するとともに職員の負担軽減にも繋げている。 ●住診時の報告・生活機能のアセスメントなど独自に工夫した様式を整備し、利用者の健康維持・増進に取り組んでいる。また薬局と協働し投薬の誤りを防止する仕組みを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に開かれた施設作りを理念に各地域の行事に積極的に参加し、地域の中で暮らしていけるように努めている。	新しい管理者を迎え、家庭的なホームを目指し運営を進めている。4つの理念に管理者の考えを加味し、職員との共有を図りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事には、地域の方々にご案内をし又地域での行事等には積極的に参加している。	地域密着型サービスとしての特性や利用者への有益性を認識しており、ボランティアの来訪、敬老会への招待等を通して地域との交流に取り組んでいる。近隣の方より畑を貸していただく予定もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、実戦で積み上げた認知症の人の理解や支援方法などわかりやすくアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者の都合上開催出来ませんでした。	地域の方々や関係機関に声をかけ、運営推進会議の開催を目指し、取り組んでいる。	運営推進会議の開催を通して更なる地域交流が進むと考えられる。様々な方との意見交換が運営に結び付くことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	十分な連携体制を図り、常に協力体制を築いている。	手続きや相談のため行政の窓口を訪れるなど、関係構築に努めている。また電話・メール・FAXでの研修案内等も活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する勉強会を開催し職員全員に理解してもらうように指導を行っている。又勉強会に参加出来ない職員には個別で指導を行っている。	やむを得ない場合には家族から同意をとり、職員には正しい認識を持った支援への指導に取り組んでいる。玄関は施錠せず見守りながら利用者の自由な活動を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度の社内研修を開催し、高齢者虐待の知識を身に付け、虐待の無い介護に職員一丸になり努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加し、職員が自主的に勉強する機会を持つよう指導している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明には十分時間をかけ内容のご理解をいただき、不安、疑問について納得のいくまで話をさせてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護負担の軽減や不安については十分な聞き取りやアセスメントにおいて把握し、解消できるようにお互いに考えながら、信頼関係の構築に努めている。	日頃より電話・メール・SNS等を利用し、家族への報告を欠かさないよう努めている。また家族が来訪しやすいよう配慮をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が個々に苦情意見を聞く機会を設け又外部者の相談も積極的に受け入れている。	ミーティングの開催や日常のやりとりを通して意見の聴取に努めている。「職場および人生」の経験が豊富な職員が多数在籍しており、職員の意見を取り入れながら運営が進められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設代表者は毎日出勤、管理者、職員の勤務状態を把握評価して声掛けを怠っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員の経験年数、段階に応じ順次研修の機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員は常に同業者との交流を行っており、サービス向上に向け常に情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を傾聴し、言葉以外の表現にも気付くことも重視している。安心して生活できるように受容の精神共感的理解を示し信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護負担の軽減や不安については十分な聞き取りやアセスメントにおいて把握し、解消できるようにお互いに考えながら、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時のニーズを的確に把握し必要とする支援を行っている。フォーマルなサービスのみでなく、インフォーマルなサービスも含めて検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、庭掃除など出来ることは職員と一緒に行っていただいている。社会に貢献できる喜びを得られるように支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調や生活の様子などに変化があれば連絡を取り合い気軽に相談できる関係を築いている。また、行事への参加を促し本人との良好な関係作りを支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間帯を制限せず常時受け付けている。電話も申し出があれば気兼ねなく出来る様に配慮している。	家族との関係性が継続されるよう支援に努めている。また同法人のグループホームと合同のイベントを開催するなどホーム以外の方との交流も持つよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者の交遊関係を把握し楽しく安全に過ごせるように配慮している。又援助が必要な方には職員が間に入り手助けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じていくように努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にミーティングを開き、一人一人の思いが把握出来るよう話し合いを行っている。	入居時を中心にアセスメントがなされている。また独自の様式による生活アセスメントを実施しており、日常生活の聴取をしながら利用者の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握するうえで、介護を継続していく重要なことであり、不明な点は家族と関わりながら確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の経過記録に毎日記入し、日々の生活ぶりを把握できるように努めている。問題が有った場合は連絡ノートなどに記入し情報の共有化を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせるために、必要な関係者と話し合いを行い、意見等を反映した介護計画の作成を行っている。	担当者会議の開催時・家族の来訪時には要望を聴取しケアプランに反映するよう努めている。また状況変化への対応・優先順位の考慮に注力しながら計画の策定に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入を行い、常に職員間で情報を共有し、実践の見直しや、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に応じ、目の前にある畑にて収穫を自由に行っていたり、その時々生じるニーズに合わせ、職員を増員できるよう柔軟な対応をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、ボランティア、市の地域包括相談員に來所して頂き、安全で豊かに生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅クリニックの医師に來ていただき、常に医療が受けられる体制を図っている。	往診時には所定のフォーマットにて利用者の身体状況等を伝える仕組みが作られている。また薬局の協力により日めくりカレンダー式の保管がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	在宅クリニック、医師看護師には、日々の心身状態や情報、気づきを、伝え指示を受けながら、入所者が適切な診療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して診療が受けられるよう、常に連絡を取り医師との関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にある程度の方向性を話し合い、必要な段階には、家族を含め主治医、看護師と十分な話し合いを行い、チームでの支援に取り組んでいる。	入居時に家族に対してホームでできる支援について説明に努めている。家族の気持ちの変化や不安について対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員による、訓練を受け、緊急対応の研修等にも参加し、実践力を身に付けているようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回の避難訓練を行い、入所者の安全な避難方法を確認し、災害時の協力は、自治会にもお願いしている。	火災想定での避難訓練を実施している。地域との連携が重要であることを認識している。	地震想定での訓練の実施を次回予定しており、搬送・避難経路・職員の判断等々の確認を行う意向を持っている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の力に応じ、声掛けや対応を行っている。プライバシーについては職員それぞれに守秘義務がある事や、排泄、着替え、トイレ誘導の際の気配りなどに配慮出来る様に努めている。	排せつや入浴時のプライバシーの確保、利用者の性差を意識した支援の徹底等に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己決定に結び付けている。表せない入居者は、表情やしぐさなどから思いをくみ取り自己決定に近づけるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や、入居者の都合を優先することもあるが、個性を重視した介護を目指している。日々の暮らし方も「その人らしく生きる」		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、おしゃれができるようその人の能力に応じ支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は調理等の手伝いができる入所者はいない為行っていない。下膳等は何名かできる入所者がいるために手伝って頂いている。	食事時にはお盆やテーブル拭きなど出来ることは手伝ってもらおうよう努めている。またゴミ捨てや草むしりなど食事以外で活躍できる場や役割をもってもらえるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は正しく把握できるよう毎日記録している。食事制限、水分制限のある方については主治医、看護師の助言をえて食事、水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行っている。できない方には必要に応じ職員が介助を行っている。義歯の方には夜間、洗浄剤を使用して義歯の清潔管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はできるだけトイレで行えるよう支援している。一人ひとりの力や排泄パターンに応じ声掛けトイレ誘導を行っている。	排せつの記録がなされており、パターンの把握による誘導を実施している。便秘がちな利用者については医師の指示を受けながら対処に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの便秘の原因や及ぼす影響を理解し、ヨーグルトや食物繊維の含まれている食材を利用し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているものの、入居者の希望を聞き、入浴剤なども利用しリラックスして入浴ができるように努めている。	利用者の健康状態を考慮し、清拭に変更するなど柔軟な対応により清潔保持に努めている。重度化に伴い機械浴を導入するなど湯船にゆっくりと浸かってもらえる環境を整備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共有スペースのソファで自由に休憩を取って頂き、夜間は、居室の室温や寝具の状態、入眠状態の確認をおこない、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬について理解しており、その人に応じた服薬支援を行い、症状の変化の確認を行っている。又定期的に薬剤師を招き薬についての勉強会も開催している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある生活が送れるように、個々の力に応じた役割を担ってもらったり、希望に添った気分転換にも対応できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り、個々の希望に添った、外出の支援になるよう、時には家族の協力を求め行っている。身体機能低下により外出を好まない方がいるものの、周辺の散歩など声掛けを行い、車椅子、歩行器を利用し、身体に負担がかからないように支援している。	広い敷地に立地するホームは職員の見守りと利用者の自由を重視する考えのもと外出できる環境が整えられている。自然あふれる周辺への散歩も積極的に行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる人には、自分で管理され買い物や受診料の支払いを行っている。金銭管理が不十分になっている方で、手持ち金がないと不安を感じる場合には家族と相談のうえで小額の現金を持って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの訴えがあれば常時対応している。手紙、はがきを出したいと申し出があれば常時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居者の不快感の減少に心がけ、季節感や生活観を感じて頂けるように工夫している。	昔のポスターやホームのシンボルマークを掲示するなど懐かしめる・くつろげる雰囲気作りに努めている。プランターによる栽培を楽しむなど利用者が憩える場の提供に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを置き、自由に過ごして頂ける場を設け、テーブル席は身体的なことを含め、なるべくその人の居心地の良い場所になるように日々工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた馴染みの物を設置し、居心地よく過ごせる環境作りを日々工夫している。	居室にはタンスやテレビが持ち込まれている。職員と一緒に整理整頓がなされており、休んだり編み物をしたりと自由に過ごすスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全に過ごせるように日々工夫している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	56	入所時より認知症ADL身体的機能低下が見られている。	一人一人に合った良いケアを目指す。	ケアカンファレンスを開き、入居者一人一人の状態を把握し職員全体で統一したケアを行う。	6ヶ月
2	2	地域との連携がなかなか取れていない。	小学校・中学校の運動会に積極的に参加し、消防訓練や地域の納涼祭に参加できるようにする。	地域広報誌を定期的に配布し、地区の集会に参加して、消防訓練やイベントの案内活動をする。	10ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月